平成１７年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

（整理番号） １４ ※記入不要	提案機関名	農業振興課

要望問題　「早秋」「甘秋」の栽培方法の確立

要望問題の内容　【　背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等）　】

【背景】

神奈川県のカキ栽培は、富有と松本早生が中心に栽培され、直売で販売されている。しかし、富有では販売の中心が１１月中旬から１２月になり、豊作年には販売に苦労することが多い。そこで、販売時期の拡大にむけて早生品種の導入が必要であり、（独）果樹研究所が育成した「早秋」「甘秋」はこれまでの成績から品質が良いことは判断されるが、収量性がはっきりせず栽培方法の検討が必要であると考える。そこで、苗木からの栽培、高接ぎ等を考慮し品種特性にあった栽培方法を検討して欲しい。

【内容】

・神奈川県における「早秋」「甘秋」の適正着果量
・「早秋」「甘秋」の整枝剪定方法

解決希望年限	①１年以内　②２～３年以内　③４～５年以内　④５～１０年以内
研究対応区分	①研究所対応　②委託研究　③共同研究　④その他
対応を希望する研究機関名	①農業総合研究所（ ②根府川試験場　③三浦試験場　④津久井試験場 ） ⑤畜産研究所　⑥水産総合研究所（ ⑦内水面試験場　⑧相模湾試験場 ） ⑨自然環境保全センター

※　ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業総合研究所
部　　署：	生産技術部
対応区分	①実施　②実施中　③継続検討　④実施済　⑤調査指導対応　⑥現地対応　⑦実施不可

試験研究課題名　（①、②、④の場合）
カキ「早秋」の高品質安定生産技術の確立

対応の内容等

ご指摘のとおり、「早秋」「甘秋」の果実の優秀性は生物資源部の研究等で明らかになっているところです。平成１６年度からは生産技術部が上記の課題で「早秋」の研究を開始しました。現在、「早秋」の結実安定のための授粉の効果を中心に研究実施中です。なお、平成１７年度からは「甘秋」についても課題化して取り組んでいく予定です。

一方、平成１６年春に「早秋」「甘秋」の苗木を新植するとともに、従来の「富有」等に高接ぎを行いました。これらの樹体を利用しながら５年程度のスパンで栽培技術を確立してまいります。

解決予定年限	①１年以内　②２～３年以内　③４～５年以内　④５～１０年以内
備　考	